

<暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>

暮らしの夢

11. つながり大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし

大学を卒業してすぐに税務課に配属された。窓口ではあいさつを優先し、明るい対応わかりやすい説明を心がけている。相談を受けることが多く、税金を有効に使う大切さを感じている。

先日、職場の業務とは関係ないが、市民の方々が地域まちづくりに取り組むワークショップに参加した。私の役割は場の対話を支援することだ。みんなで作った夢をどのようにして実現していくか、いろいろなアイデアが飛び出し、その中から各自でできることを担いあうような動きになっていった。市民の力はすごいと感じた。

職場では、仕事が終わってからの気軽でまじめな語らいの場が設けられていて、部署を超え年齢を超えた職員が自由に集ってくる。和やかな中にも熱気があふれていて、仲間意識が高まる。

(20歳代市職員)

今回の人事異動で課長に昇格した。早速、新しい体制で、1年間の部のビジョンや課の事務事業の確認をした。ビジョンは予算要求時に前部長が示したもので、新しい部長が見直しをした。課では、みんなの“かたの”基本構想と事務事業の整合を再確認したあと、職員が提出した仕事に対する役割と自分自身の能力アップの目標を元に、一人ひとりと対話してアドバイスした。

将来にわたって専門的に取り組みたいという職員がいたので、専門能力を高めるプログラムへの参加を勧めた。

こうして、一人ひとりの目標と市民の暮らしまでのつながりが毎年確認できているため、仕事について説明しやすい。

いずれ事務事業や職員の評価もしなければならぬが、こうした作業がつながっていて基準もわかりやすくなっているのだからこなるだろう。

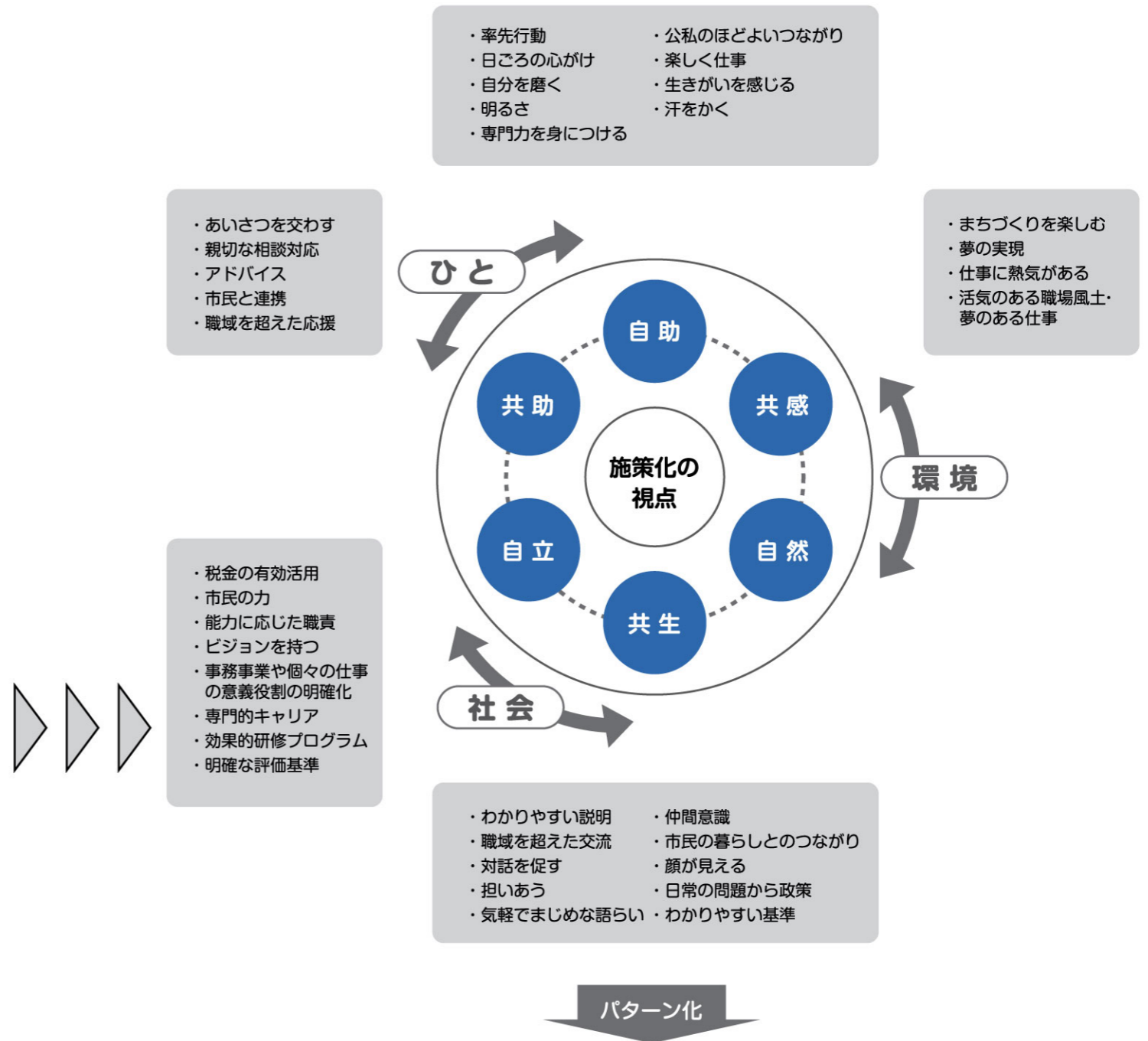
(30歳代市職員)

市民との企画会議があった。行政のいろんな職場を経験してきたが、地域活動や市民活動と連携する仕事が多く、楽しくあせをかいてきた。普段から顔見知りの市民の方々と出会う機会も増え、互いに話がしやすく、日ごろのつながりが大事だなと感じている。地域のこと良く分かるし、いざというときの対応もしやすい。

先日の日曜日、道端でばったり会った市民の方と何気ないあいさつから始まった会話で、気になることがあった。翌日そのことを政策部門に伝えたら、同じような問題がある職場の窓口でもあったらしい。その後いろいろな問題と一緒に検討されて新しい取り組みが生まれることになった。

公務員の顔と個人の顔。共に楽しみながら仕事に仕上げ自分自身を磨く。生きがいのある暮らしだ。

(40歳代市職員)



No.	“かたのサイズ”をめざす像
76	市民も事業者も市の職員も、みんなで楽しく汗をかいている
77	暮らしに役立つ情報が、わかりやすく、すぐに手に入る
78	気軽に話を聴いたり、したりする場が身近にある
79	おいに誇れるおいしい水道水が毎日飲める
80	一人ひとりの悩みや思いが繋がってまちの施策になっている
81	公共の施設がいろいろな市民の活動に利用されている
82	公共の施設の窓口が便利でわかりやすく親切である